# 齋藤が決めた！ 11季ぶり亜大から白星

## 亜大3−4×駒大☆

**1回戦**
13年春季リーグ
第6週・5月14日
6勝1敗

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 亜 | 大 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | |
| 駒 | 大 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | x | 4 |

| | | |
|---|---|---|
| (4)砂　川 | 4 | 1 | 0 |
| (7)齋　藤 | 3 | 2 | 1 |
| (6)下　川 | 4 | 2 | 0 |
| (8)江　越 | 4 | 1 | 1 |
| (5)福山亮 | 4 | 2 | 1 |
| (2)木　下 | 4 | 1 | 0 |
| DH柳　原 | 3 | 0 | 0 |
| PH前　田 | 1 | 0 | 0 |
| PR松　本 | 0 | 0 | 0 |
| (9)西村凌 | 3 | 0 | 0 |
| (3)篠　原 | 3 | 1 | 0 |
| PH山　口 | 1 | 0 | 0 |
| 計 | 34 | 10 | 3 |

▽二塁打＝下川

| | 回 | 打安責 |
|---|---|---|
| ○今　永 | 9 | 38 9 3 |

サヨナラ打を放ち喜びを爆発させる齋藤

勝率を並ばせ首位対決となった亜大との第一戦。同点で迎えた9回裏、齋藤導久(政3)のサヨナラ打で息詰まる戦いに終止符を打った。投げては今永昇太(経2)が粘投で完投勝利。11季ぶりの勝ち星を得た。

亜大の交通事情により、30分遅れての開始となった。2回に本塁打で先制されるが3回裏、相手の失策も絡み、1死二三塁で不調気味だった4番江越が適時打を放つ。一、二塁間の走塁中に挟撃されるが、その間に下川和弥(営3)が本塁へ。この回で計2点を奪い逆転に成功するが、7、8回に2本の本塁打を浴び再びリードを許す。続く8回裏、2死三塁の場面で福山亮(経3)の中前適時打で再び追いつく。

同点の最終回、守備を三者凡退で切り抜けると、砂川哲平(法3)が敬遠され、2死一、二塁の場面で齋藤が打席に。「打って自分が喜んでいるイメージをして入ったのがよかったのかも」と、右中間へサヨナラ打。イメージ通りの満面の笑みで、代走出場していた松本皐兵主将(地4)のホームインを塁上で見届けた。投げては今永昇太(経2)が、不調の中での完投勝利に、「粘り粘っての1勝、5勝ぶんの1勝です」と苦しい試合も自身の奮闘を評価した。

本塁打のみの失点とはいえシーソーゲームを制し、亜大から一部復帰後初白星を挙げた。

文＝五十嵐秋音

**松本主将が選ぶ！**

今日のベストプレイヤー！　「齋藤」
ベストプレー　「サヨナラ打！」

**2回戦**
13年春季リーグ
第6週・5月15日
7勝2敗

## 駒大0−2亜大

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 駒 | 大 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 亜 | 大 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | X | 2 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (9)砂　川 | 4 | 2 | 0 |
| (3)西　村 | 3 | 0 | 0 |
| (6)下　川 | 4 | 1 | 0 |
| (8)江　越 | 4 | 0 | 0 |
| (5)福山亮 | 3 | 1 | 0 |
| (2)木　下 | 3 | 1 | 0 |
| (7)齋　藤 | 3 | 0 | 0 |
| DH篠　原 | 3 | 0 | 0 |
| (4)福山慎 | 2 | 0 | 0 |
| PH巻　木 | 1 | 0 | 0 |
| 4　松　本 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 30 | 5 | 0 |

| | 回 | 打安責 |
|---|---|---|
| ●片山 | 7 2/3 | 28 4 2 |
| 箱島 | 1/3 | 1 0 0 |

3季連続優勝を果たしている亜大から先勝して迎えた2戦目。不調と言われた亜大エース・九里亜蓮(4年＝岡山理大附)の前に打線が振るわず、好投した先発・片山雄貴(商2)を援護することができなかった。

2回、右越二塁打で走者を出すと2死二塁から片山の放ったインコース真っ直ぐの球を左翼スタンドへ運ばれる。その後は低めに集める投球で自身最長の7回2/3を投げ、被安打4に抑える力投。「今までで一番長いイニングを投げたが、立ち上がりや先制点をあげない事など課題はある」と満足することはない。

継投した1年生投手の箱島章矢(地1)は2死一、二塁の危機を3球で仕留める勝負強さを見せた。

打線は6回、先頭の砂川哲平(法3)が左前安打で出塁すると、犠打を決め1死二塁の好機を作る。だが、後続が共に倒れ得点することができない。その後も好機を活かせず5安打に終わり、今季初の完封負けを喫した。

あと1本が出なかった打線

ここまで亜大との優勝対決は勝ち点3の7勝2敗でピタリと並んだ。次戦がいよいよ本当の首位決戦となる。このカードを制した者が優勝へ一歩リードすることができる。主将・松本皐兵(地4)は「意地で気持ちで勝っていきたい」と気合を込めた。

文＝服部萌香
写真＝山本春熙

**今季初の完封負け…**
**明日、大一番**